

## 第 1 回南相馬市復興有識者会議 意見のまとめ

### ■有識者会議で挙げられた意見・提案

#### 1. 復興計画について

- 震災復興は社会やまちづくりの考え方を変えるチャンス
- 震災を復興することがこの時代に生きていく人の使命
- 復興計画は南相馬市市民の思いを受け止めて具体的に示すことが必要
- 心をひとつにする復興計画とすることが必要
- 南相馬市の強みを活かすことが必要
- 課題への対応について、優先順位をつけることが必要
- 「人づくり・教育・伝統文化」の視点が重要
- 市外にいる人を戻すためにも、安全・安心な環境をつくることが必要
- 議論をしながら計画を策定していく過程が重要

#### 2. 市民生活環境について

- 仮設住宅の住環境の向上が必要

#### 3. 地域経済について

- まちを構成する主体がそれぞれ支えあい、連携して再生を図ることが重要
- 地域の強みを活かすことが重要
- 世界の英知を集め、自然からの恵みと自然再生エネルギーを利用することが重要
- 地域を活性化させるしくみは、つなげる、重ねること
- 見方を変えて大胆に、世界に発信し世界を味方につけることが必要

#### 4. 都市基盤について

- 人口減少社会でも豊かで楽しい人生を送ることのできるまちづくりが必要
- さらに飛躍させる基盤整備が必要
- 生活再建のための道路交通網の整備が必要
- 中心市街地の活力向上が必要

#### 5. 原子力対策・防災について

- 医療の視点からは、放射線に対する現況を整理することが必要
- 放射性物質の汚染への対応は長期的な視点で、世界のモデルにすることが重要
- 放射性物質による問題に対しては、どうすれば安心なものとなるか考えることが必要
- 南相馬市独自の考え方を発信することが必要

#### 6. スローガンについて

- スローガン「心のふるさと」について再考しては

## ■復興有識者会議で挙げられた意見・提案

### 1. 復興計画の策定について

#### ○ 震災復興は社会やまちづくりの考え方を変えるチャンス

- ・震災や原子力発電所の事故による被災は、まちのあり方、社会に対する考え方を变えるチャンスかもしれない。

#### ○ 震災を復興することがこの時代に生きていく人の使命

- ・復興計画は、先祖から授かった土地について、50～100年単位の子孫の幸せを考える必要がある。それが、この時代に生きている人の使命。

#### ○ 復興計画は南相馬市市民の思いを受け止めて具体的に示すことが必要

- ・福島県のビジョンは福島県人の「思い」を示すことが重要だった。南相馬市での復興計画での県との違いは、具体的に何をするのか。その信念をどう表現するかということ。
- ・南相馬市復興計画づくりの原則について
  - ①安全・安心・信頼の原則
  - ②被災者・避難者に負担を求めない原則
  - ③地域アイデンティティ再構築の原則
  - ④共同・協同・協働の原則
  - ⑤歩いて暮らせるまちづくりの原則
  - ⑥産業グリーン化の原則
  - ⑦脱原発・脱石油エネルギーの原則
- ・市民の方たちが何を考え、何を望んでいるか、その要望と苦しみを受け止めることが大切。

#### ○ 心をひとつにする復興計画とすることが必要

- ・復興に関しては、心の過疎が問題。心をひとつすることが大切。

#### ○ 南相馬市の強みを活かすことが必要

- ・南相馬市の強みは、世界中の人が市長を知っていること。
- ・この地域の特徴は「やさしさ」と「バラバラ」であること。喧々諤々の議論をして、叩き合いながら合意形成をしていけばよいのだろう。

#### ○ 課題への対応について、優先順位をつけることが必要

- ・医療を含めた社会の基盤について、もともと日本の平均より低い地域で、社会的なインフラが壊れてしまった。このような状況で地域に何を優先すべきか考える必要がある。

#### ○ 「人づくり・教育・伝統文化」の視点が重要

- ・基本方針の中に、人づくりを入れることが大切。伝統文化を中心とした育成が重要。

#### ○ 市外にいる人を戻すためにも、安全・安心な環境をつくることが必要

- ・避難先で介護を受ける場合や子どもが生まれた場合、その土地の市民にならなければならない。このままでは、市の人口は減少を食い止めることができない。安心をつくって、

今、市外に居る人たちを戻すことが重要。

#### ○ 議論をしながら計画を策定していく過程が重要

- ・とにかく議論をしてほしい。議論をした上での最適案が重要。このプロセスが欠けてしまうことが多い。どんなプランも100%賛成というプランはない。文句は出るだろうが、その過程が重要。
- ・インフラ整備の計画は、反発があったとしても、行政が骨子をつくらなければならない。最初に軸を決めて、ぶれずに具体化することが大切。最初に骨格になる部分をコンパクトにつくっておけばよい。

## 2. 市民生活環境について

#### ○ 仮設住宅の住環境の向上が必要

- ・仮設住宅整備にあたっては、“仮設”だけではなく、定住としての住環境整備も必要。

## 3. 地域経済について

#### ○ まちを構成する主体がそれぞれ支えあい、連携して再生を図ることが重要

- ・協働は、自分の資産を生かしていくためにはどうすればよいか、考えることにつながる。農家収入が少ない中、農家にお金が落ちるようなしくみ、農家のいきがいを考えていくなど、互いに連携していくことが必要。

#### ○ 地域の強みを活かすことが重要

- ・地域にある豊かな資源を強みに変えることが重要。地域に豊かな資源がある中、外資系店舗があるまちがよいとは言えない。

#### ○ 世界の英知を集め、自然からの恵みと自然再生エネルギーを利用することが重要

- ・浜通りにゼロカーボン地域をつくる。自然の災害を克服し、自然から恵みを受け、自然の力を利用する。自然をたのしむまちであってほしい。
- ・自然エネルギーは、産業化することができる。国内では、発電機は大規模のものしか作っていないため、小規模のものは海外（オーストリア、スウェーデン等）のものを導入するしかない。南相馬市で実現することにより分散型社会をつくっていける。

#### ○ 地域を活性化させるしくみは、つなげる、重ねること

- ・産業はまちを支える。これからの産業は大きなものでなく、小さなものをクラスター状に形成すればよい。つなげる、重ねるが重要。

#### ○ 世界に発信し世界を味方につけることが必要

- ・逆境を逆手に取って、まちづくりの枠組みを再構築することが重要。復興債を発行する場合にも、世界に発信し、世界を味方につけることが重要。

## 4. 都市基盤について

### ○ 人口減少社会でも豊かで楽しい人生を送ることができるまちづくりが必要

- ・地方都市の人口減少への対応は、方向性を決めることで、今より豊かな社会とすることができるはず。例えば、フランスの田舎は豊かで楽しめる暮らしをして人生を楽しんでいる。輝いた生活を送ることができるまちにすることが、本当のまちづくりではないか。

### ○ さらに飛躍させる基盤整備が必要

- ・都市計画課都市計画図を見たところ、なかなか行政レベル。都市計画というのは土地を規制するものであるためポリシーがないとできない。原町、鹿島、小高はきちっと都市計画をされてきている。
- ・平常時に立派なプランをつくっているのだから、震災を契機にさらに飛躍させる整備をすべき。

### ○ 生活再建のための道路交通網の整備が必要

- ・市でできることには限度がある。生活再建においては、災害に際して、大胆に変更することも考え、道路・交通網をどう整備するか。国道6号のほかに、中通りから横軸を設けることにより、浜通りと連携することができる。

### ○ 中心市街地の活力向上が必要

- ・中心市街地は、これまでの規制（所有権、制度など）を再検討する必要がある。
- ・中心をどこに置くか、ハードだけではなく、発信の場として再生することが重要。

## 5. 原子力対策・防災について

### ○ 医療の視点からは、放射線に対する現況を整理することが必要

- ・まず、現状を整理することが必要。放射線に対しては、世界に著名な研究者が集まっており、現地に入り調査をしている。
- ・医師の数が足りないので、大学医学部を作ろうという動きがある。誘致する価値はある。

### ○ 放射性物質による汚染への対応は長期的な視点で、世界のモデルにすることが重要

- ・放射性物質による被害は、一代では終わらないだろう。子ども、孫の世代にまでにはよくなっているはず。だからこそ、孫の世代の状況を考えるとよい。
- ・子どもの頃、原爆が投下されて時間がたつにも関わらず、広島には放射能があるという意識があった。それほど悲惨だった広島は、現在、緑に満ちたまちになっており、平和といえば、広島という都市イメージになった。それを福島がバトンタッチしてもいいのではないか。これを世界のモデルにすればよいだろう。
- ・田村市には一部立ち入り禁止区域があるが、放射線は高くない。福島というくりに囚われず、田村市、いわき市、南相馬市で、安心安全の3拠点をつくり連携してはどうか。福島県民は、鎌倉時代から気合の入った人として育てているのだから、その土地柄をアピールしてほしい。

### ○ 放射性物質の問題に対しては、どうすれば安心なものとなるか考えることが必要

- ・今われわれが置かれている状況のやっかいさは、放射線を自覚できないこと。目に見えない。色も、臭いもない。植物もすくすくと育っている。放射線は通常の生活で養われ

た感覚では考えられない問題。

- ・広島、沖縄まで避難している人たちは、学校の始業式になると戻ってくる。三春町では、ガラスバッチを生徒全員に渡したところ、放射線についての状況は何も変わらないにも関わらず、役場に対する質問や抗議がパッタリなくなった。放射線量は、低ければ安心というものではない。ホールボディカウンターは、測れば測るほど心配になる可能性もある。どうすれば安心できるのか考える必要がある。
- ・放射線の問題は、難しいが試行錯誤するしかない。時間をかけてコンセンサスを得ていく必要がある。

#### ○ 南相馬市独自の考え方を発信することが必要

- ・3次補正の使い方について、いろいろな意見があるだろう。東京のようにリスクゼロの方向性もあるだろうが、南相馬市民にとって地域の将来のためどうすべきか考え発信することも重要である。

## 6. スローガン「心のふるさと 南相馬に生きる」について

#### ○スローガン「心のふるさと」について再考しては

- ・心のふるさとが若干引っかかる。本当のふるさとであるべきでは。
- ・未来の南相馬を描く言葉で表現を。